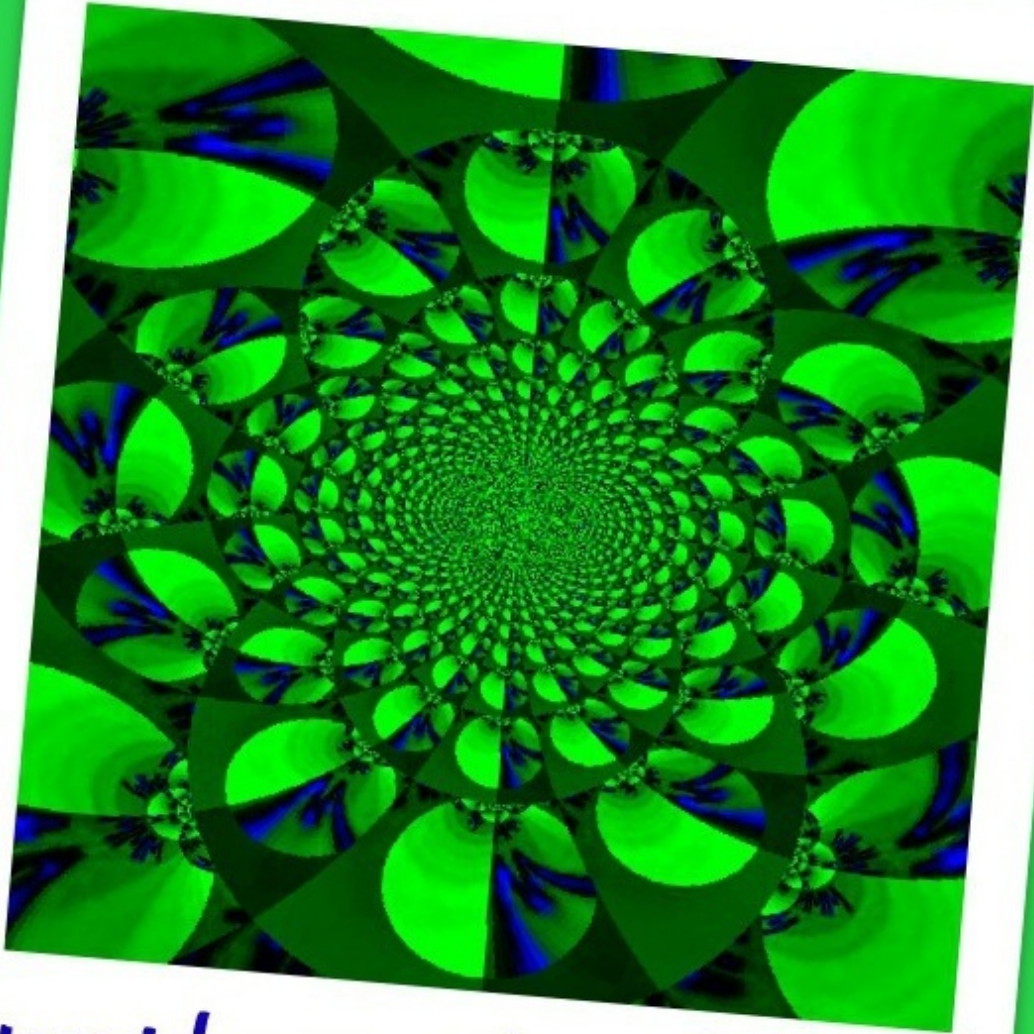


夜鳥美鳥



yORidorimidori Vol.3

mikatuki98

21 <恩>

施す.....などと言うのはおこがましいが、
誰かを何かで助けたいと思う気持ちと行為は、
過去に自分が受けた恩に起因する。

施した恩などは忘れてしまわなくては徳にはならない。
いや徳になると思って助けるのでもなく、
過去に受けた恩の有難味が身に沁みたからこそその
行為であり好意なのだ。

その好意は是非とも素直に受けて頂きたい。
受けて頂くことによって逆に私が救われているのだ。
そして恩を受けたと思ったならば私にではなく、
次に出逢うだろう本当に困っている人に施してあげて欲しい。

負の連鎖は断ち切りたいが、
正の連鎖は連綿と続いて欲しい。

22 <感>

感.....直感・感覚・感性・感動・感謝・感涙etc.

実際に体験したこと（因果）に応じて感じるということ。
つまりは体験（現世のみならず過去も含めて）がなければ
感ずるあたわずとうことになるでしょうか。

故に全ての人に自分と同じように感じて欲しい
と、思うのは無理とも言えますね。

感性が似ていると言うのは、
いつか何処かでそれぞれが似たような体験を
経ているからなのでしょう。

23 <頭寒足熱>

冷氣は下にさがって足を冷やし
暖気は上にあがって頭を熱す

故にその逆を施すのに一苦労
特に夏は真逆の状態になりがちで体調を崩す
寝る時は特に要注意

24 <肯定と否定>

その時々自分なりの考えが夫々にあるだろう
とりあえずは他人の意見を即刻否定することはヨロシクないと感じる
否！と瞬時に言えば
その時点で考える余裕はなくなり
否！否！否！と連続する度に
どんどん世界が狭くなっていく感がある。

肯定できない意見であっても
「そういう考えもありますね」

とか

「なるほど」

とか

「そうですね」

という

一呼吸置ける余裕があった方が良いように感じる。
パニックに陥いる人の傾向として
なかなか客観的に物事を見れない点があるようにも感じる。
否定し続けることで自分の居る空間がどんどん狭くなり、
目に見えない壁にぶち当たっては頭がクラクラになり
パニック状態となっているのだろう。

いくら否定しても

それは存在している事実を知っておく方が余裕が出て来る筈。

いくら自分の思考でそれが否と思っても

自分以外の人の思考ではそれが肯であるという事実。

常に心の何処かに不満を抱えていると

何かにつけ否！と言ってしまうのではないか？

逆に自分が何を言っても即刻、

否！と一喝されればどんな気持ちになるだろう？

それに反論してまた否！と言うのだろうか？

否のバトルが始まって埒があかない。

2回発する否！を1回に減らす努力から始めてはどうだろうか？

25 <運命>

運命は命を運ぶであるからにして流動的

運命の人イコール生涯の伴侶 ではない
けど そんな風に思い込む人も多々在り
出逢った人は色々な意味で全て運命の人に違いない
何かしらの影響を受ける事実が運命ということ
どう係わって行くかで運命の内容も重みも変わっていくだろう

占い師にこの人が運命の人だと言われたからと言って
そのことに執着することはあまり意味は無いように感じる
結果的に何かしらの係わりを持つにしても
それこそ恋人になるだの、配偶者になるだの、
最後は己の意思にゆだねられるべきものだろう

己の人生を誰かのせいにはしないことが必要

26 <博愛>

博.....ひろし=宙

多分、身近な人々をも愛せない人は
博愛なんて到底無理なのだろう

特別な誰かを特別に愛することは簡単のようで難しい
自分としては誰に対しても愛を持つほうが時には簡単に思えて来る
どうして特別でなくてはいけないのだろうか？
同じように接してはいけないのだろうか？
八方美人という言葉は良い意味では使われないが
そう言われたり思われたりする事よりも
そう感じてしまう人たちをも同じように愛を持って接したい
これは願望なのだろう
もっともっともっともっと深いところでの真理を追究すると
つまりは博・ひろし・宙・宇宙・神
そういうことなのだ

27 <もしも>

以前に書いたように「たれば」の話は好きじゃない

過ぎ去った過去に執着して

「あ～だったら、こ～だったら」

と悔やむことに何の価値も見いだせない

百万遍たればしたって史実が消えることはない

例え何者かの陰謀策略で史実が歪められ伝えられようとも

自分の中の記憶は誰にも変えることも消し去ることも出来やしない

だけど

「もしも……だったら」

という想像力が時に大いに役立つのが創作話の世界

例えば……

もしも

やっと出逢えた過去世の恋人が既に妻子持ちの既婚者だったら

もしも

その過去世の恋人とは絶頂期に於いて突然相手の死という悲劇によって終焉していたら

もしも

必然という名の元に再会した二人がその記憶をお互いに甦らせたなら

もしも

そこであらゆる選択肢が登場して物語になるかもしれない

選択肢に於いても想像力が生かされれば物語の展開も複雑になるだろう

そしていつか

もしも、もしもと繰り返し想像していたことが現実になるのかもしれない

となると

迂闊に「もしも遊び」もしてられないな……

もしも

この想像が真実で

お互いに真実を悟りつつも心の中に秘めたまま明かさなければ

次なる時代において二人の関係はどう発展して行くのだろう？

そのことの方が気になって必ずもう一度再会したくなるに違いない

今ある現実を大事にしない人ならば

来世において再会しても

来世における現実もまた曖昧にってしまうに違いない

今相手が幸せならば

それで良い

もしもの話

28 <油断大敵>

一寸の間も油断は出来ない
隙あらば突かれる
邪念は隙を産み其処に突け入られる

吾に隙あり 吾の引き寄せし邪悪な魔
反省は瞬時にすべし

全体を大いなる心持にて見渡しつつ
瞬時に対応できる姿勢を保つべし

眠りの中にも隙あらば襲われること必死
肉体は休めども心臓は停まるあたわず
ましていわんや魂においておや

天真爛漫幼児に還って眠りにつくべし

29 <ながら>

世間一般的には
男性は一度に一つのことしか出来ない
それに対して女性は一度の複数のことが出来る
という事になっているが、全ての事象には例外もあり
何よりも一般論を絶対論と主張するのはどうかな？

つまるところ、十人十色百人百様ということ

パソコンを見ながら目の前のTV画像をチラ見して
おやつも頬張りながら別サイトで音楽を流す
十分<ながら>だなと思う

パソコンだとスカイプやヤフーメッセの電話で会話しながらも
パソコン画面で多種のサイトをチェックしている相手
TVも点いていれば音楽もかけていればラーメンもすすっている
当然のことながら会話には集中出来ていないだろう
仮に内容が真剣な話なら不愉快千番！となる

真剣でなくとも話を半分しか聞いてないのだろうと想像出来る
会話と言うよりも言葉というよりも音として時に捉えているだけかもしれない
この状態がお互い様であれば、問題は無いかもしれない
しかしコチラは会話に集中している、もしくは集中したい場合
つまり温度差が大いにある相手と会話をする事事態
凄く無駄な事をしているように思えたりする

時間を有効に使いたいから＜ながら＞にするのと
時間を有効に使いたいから＜一事を一心＞にするのと
どっちが皆さまはお好みですか？
それもまた状況において千差万別ということなんでしょうね。

わたしは毎晩、音楽を流しながら眠りに就きますから♪
ある意味＜ながら＞人ですw
でも愛する人とは
一語一句一声一音逃さずに電話だけでなく、
会話というコミュニケーションを体験してみたいですね。
思い返すに
未だにそんな素敵な会話を体験出来た相手は居ないようです。

30 ＜仕事＞

どんな内容の仕事であれ
其処で働く人間、つまりスタッフ全員の和合が出来ていないと
本来の仕事振りが発揮出来ないに違いない。
チームワークとか連携プレーとか良く言われるが、
気持ちがバラバラな職場では仕事にならないだろう。
シンプルな伝達がスムーズになされない現実に驚くことが多い。

例えば今日遅いランチを食べた店。
連れも無く一人だったのでカウンター席を選んだ。
空いているのは奥の位置で丁度洗い場の前だ。

ランチタイムだったが、私が注文したのは単品一皿。
注文を受けた係の人もハッキリ大きな声で確認してくれてとても感じのよい対応。
調理人にも大きな声で「XXを単品です！」と伝えた。
ところが調理人は少し間を置いて「ランチ？」と訊き返したので
「いえ、XXの単品です」
「XXのランチ？」

「XX、単品、です」

聞いている私もどうしてハッキリ単品でと言っているのに一度で了解しないのだろうか？と二人のやり取りを不審な思いで聞いていた。

その後も他のお客の注文に対しての確認にも調理人の何かひっかかるもの言いを感じて気になった。チラリと調理の人を見ると何気に不機嫌な顔だ。熱い火の前で立ちっぱなしだったから、疲れもピークになっていたのかもしれない。だからと言って、そんな顔（不機嫌な気持ち）で作ったら料理が不味くなるのになあ～と思いつつ見て見ぬふり。注文した皿が来て食べる事に集中していたつもりだが、どうも不協和音が聞こえて来るやり取りが気になる。

そして食べ終わって帰り支度をしている時だった。注文を聞いてくれた人が後かたづけで気を聞かせたのだろう。「コレ、洗ってもイイですか？」と使ったあと多分置き忘れたままだろうと思われるまな板を見せて言った。するとそれを見た料理人は「うん、いいよ」との返事。

ところが彼女が洗い終わって所定の位置にしまおうとした時だった。「それ洗っとったんよ！」と何気に憤慨気味。「え？」私の方がビックリした。（いや、今、洗ってもイイですか？と確認してイイよと言ったから洗ったのに）洗った後で「洗っといたのに何でまた洗うのよ！？」という理不尽な言葉。「洗って其処に置いといたんよ！」「……」

気をきかせた洗った彼女も返す言葉もない。私も何だか気分が良くない。お客が不快な気分になって帰ろうとしていることなんて調理の人は知ったこっちゃないのかもしれないが、これじゃあお客は減るよね……とお店の心配などしてみたが、そんなやり取りに気が付く客も私くらいなのかもしれない。

ただ考えさせられたのは、やはり仕事はチームワークだということ。仕事の内容云々よりも、どういう気持ちで仕事をしているかなんだと思う。

お互い信頼し合い協力し合う気持ちが鼻から無いのなら、
何につけてもスムーズに行くものではないだろう。
あくまでも仕事をしているのは人間だということ。
無機質な物を相手にしていようと扱うのは人間だということ。
何が気に食わないのか知らないけれど、
気に食わないと思う気持ちが全てに影響しているということ。
そして結局、巡り巡って自分に帰るとということ。
知って欲しいな。

いえいえ、分かっていますよ。
人間ですもの、喜怒哀楽の感情に支配されるってこと。
でも、仕事には私情をはさまないのが鉄則。
公平無私で淡々とこなすのがスムーズに行くコツじゃないかなあ～
そして、和合！ しましよ～う……ね。

mikatuki98